



サッカーワールドカップから学ぶチームワーク

国分北小学校 川野 浩明

サッカーワールドカップ。私も毎回この時期だけ急にサッカーを見るようになっていきます。日本は、惜しくもブラジルに負けてしまいましたが、素晴らしい試合を見せてくれました。国や言葉、文化の違う選手たちが、仲間と力を合わせ、一つの目標に向かって全力でプレーする姿には、子供たちにも伝えたい大切な学びがあります。

メッシ選手やエムバペ選手、ハーランド選手などシュートを決めるすごい選手が目立ちますが、実はその前にパスをつなぐ選手、相手の攻撃を防ぐ選手、仲間のために懸命に走る選手、そしてベンチから声を掛け続ける選手など、一人一人が自分の役割を果たすことで、一つのチームが成り立っています。



イラストはAIにより作成

その姿を見ていると、本当のチームワークとは、「自分が活躍すること」だけではなく、「仲間のために自分にできることを精いっぱい行うこと」だと気付かされます。そこには、自分よりも相手やチーム全体のことを考えて行動する「利他の心」があったのだと思います。

これは学校生活にも通じます。先日は、下校中にけがをした友達に声を掛け、学校まで送り届けてくれた友達がいました。お昼休みには、校庭に落ちているゴミや危ない木の棒などを拾って片付ける友達がいます。また、運動委員会は、みんなが運動を楽しめる活動を企画・運営してくれます。そういった、友達のためにする一つ一つの行動が、安心して過ごせる温かい学級や学校をつくれます。

本校では、「利他の心の育成」を教育活動の柱の一つとして大切にしています。自分のためだけでなく、友達や学級、学校のために行動できる子供を育てることが、よりよい学校づくりにつながると考えています。



ワールドカップを観戦する際には、子供たちと「どんなプレーがチームを支えていたかな」、「自分なら友達のために何ができるかな」と話し合う機会とするのもいいかもしれませんね。